

このコーナーでは、農業のちょっとしたコツを、市の営農指導員からお知らせします。

営農指導員のワンポイントアドバイス

営農指導員 永奥 啓

来年の花弁栽培に向けての作戦

1 来年の花弁栽培の計画樹立

本年の花弁栽培を終えた今の時期に、来年に向けての栽培計画を立てましょう。



2 花の種類を考える前にターゲットを絞る

①若い人にはかわいいた洋花、高齢の人には落ち着いた花
②家庭のテーブルに飾るにはあまり大きくないかわいいた花、プレゼントなら一見豪華に見える花、墓や仏壇用なら短めでかさばらない昔ながらの種類の花など。

3 花の選択

ターゲットが定まったら、自分の技術力・資本力・労力に合った花を選択します。

例えば、プレゼントやちょっとした

豪華に飾るユリ類は、球根代や栽培用の施設が必要で、資金がそれなりに必要です。

4 出荷の時期

墓や仏壇用の花は、年中需要があります。特に春・秋の彼岸や盆、正月などには売り切れが続出するため、安心して出荷できます。

5 播種日・挿し芽繁殖の時期

例えば、盆の墓用のアスターを栽培する場合、3月下旬にハウス内で播種(種まき)できるように、種子の注文や播種床の準備をします。

6 栽培の準備

作戦を練り上げたら、早速栽培の準備です。
まずは土づくりから始めましょう。土づくりは、早いうちから有機物(ワラ、落ち葉、牛糞堆肥など)を畑にたくさんすき込むのが基本です。

この時に、苦土石灰または石灰と一緒にすき込んでおきましょう。

ある程度経験を重ね、技術的にも自信がいたら、本格的に花卉市場への出荷を考えてみましょう。

問い合わせ

農業振興課農業振興係
☎0824・73・1131

庄原が好き



庄原市立比和自然科学博物館 公開講座のリピーター

山崎 さつきさん(中央)・周さん(左)・達さん(右)

このコーナーでは、人と人とのつながりや暮らしのストーリーを、シリーズで紹介しています。まちを知り、地元の新魅力を発見することで、人を、まちを、もっと好きになりますように。

教室で標本作りの楽しさに目覚めた長男は「オニヤンマの標本を作りたい」と言って、夏の間中トンボを追いかけしていました。

化石発掘体験

化石発掘体験も大人気の講座です。1600万年前、庄原市は海の底にあり、現在ではあちこちで当時の地層が露出しています。巨大ザメ「カルカロドン・メガロドン」の歯が道路工事の残土から発見されたこともあるそうです。

体験講座で発掘の方法や化石の種類を教えてもらったので、後日近所で探してみたところ、ピカリアという巻き貝の化石がゴロゴロ見つかりました。

公開講座に参加することで、庄原の魅力が再発見されています。子どもたちにも庄原のことや自然のことをたくさん知ってもらいたいと思っています。

昆虫採集教室

比和自然科学博物館が開催する公開講座に、毎年参加しています。ことしの夏は、昆虫採集教室に参加しました。

この教室は、トンボの標本を作るにはエノコログサの穂を芯にするのが一番良いとか、ヨコヅナサシガメが西城町で初めて確認されたとか、オサムシの標本が景品のジャンケン大会があるとか、とてもマニアックな内容で、興味深かったです。

SNSの投稿募集中
「#庄原が好き」
で投稿!



投稿を
チェック

問い合わせ

自治定住課定住推進係
☎0824・73・1257